Zoom ミーティングを活用したインタビューにおける環境整備とそれに伴う自己調整力向上の試み
（NEW HORIZON English Course 1 Unit 7 Foreign Artists in Japan）

安芸太田町立加計中学校

①話・や　②協・発　②協・遠　③タブ　④Zoom

【ここがポイント！】

① Zoom ミーティングの有効活用によるタイムパフォーマンスの向上
生徒の教室移動や面接官（本事例では ALT３名）の来訪といったタイムコストを削減し，時間効率を上げることで，一人当たりの言語活動量を相対的に増加させる。

② ソフト・ハード両面の効果的使用による良好な 1on1 同時接続環境の構築
ヘッドセットの使用やアプリケーションのセッティングの工夫により，生徒全員が同じ教室内で言語活動を行う場面において，相互干渉を減らし，より一層個々が言語活動に集中することができる 1on1 の同時接続環境を整える。

③ ブレイクアウトルームを用いた相互モニタリングの実施と自己調整学習の推進
ブレイクアウトルーム内での 1on1 のインタビューの様子を相互に観察することで，気付きの共有やフィードバックによる改善を進め，自己調整力の向上を図る。

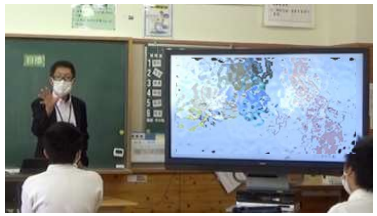
【実践の目標】

ＩＣＴの効果的活用によりパフォーマンステスト（本事例では 1on1 のインタビュー）における活動環境や時間効率を改善し，生徒個々の自己調整学習を推進するとともに，言語活動の質・量を一体的に向上させる。

【実際の場面】

1．Zoom ミーティングを設定し，言語活動の内容を事前に共有する
事前に Zoom ミーティングを設定し，ミーティング ID とパスコードを生徒に配布，実施当日の言語活動の内容を明示した。生徒にあらかじめ言語活動の全体像をイメージさせることにより，動機付けや目標設定を促すことができた。

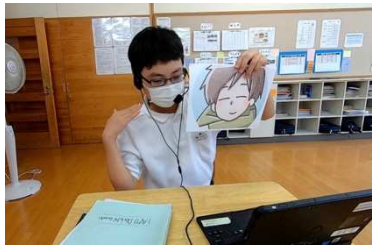
2．Zoom ミーティングに参加し，割り当てられたブレイクアウトルームごとに事前演習を行う
ブレイクアウトルームごとに，実際に行うパフォーマンスについて，ペアで演習を行った。ルーム内で順番に実践した後，アドバイスや気付きを共有し合うなど，相互フィードバックを行った。



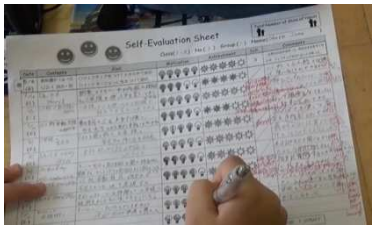
3．インタビュー（１回目）を行う
ブレイクアウトルームに分かれ 1on1 でインタビューを開始した。インタビュアー以外の生徒はその様子を観察することにより，自らのやり取りに生かした。

4．振り返りの時間を設け，自己評価と２回目に向けた目標設定を行う
自己評価及びルームメンバーからのフィードバックにより振り返りを行った。その後，個々に次回の修正点の確認と目標の再設定を促した。

5．インタビュー（２回目）を行う
ブレイクアウトルームを移動し，評価者であるインタビュアー（ＡＬＴ）を入れ替えて２回目のインタビューを実施した。生徒全体には，自分が話す内容やその組み立てを意識するよう指示し，注意を焦点化させた。



6．本時のふり返りを行い，自己省察を深める
２回のインタビューを比較しながら，目標に対する到達度を自己評価し，成果や課題とその原因について考察させた。言語活動を通して満足度が高かったことを中心に感想を共有させ，事後の学習への意欲付けを行った。



7．インタビューの動画・音声記録を Teams にアップロードし，ポートフォリオとして活用する
言語活動の映像・音声データを記録させ，クラウド上に保存させた。随時参照可能なデータとなり，事後学習への発展や評価資料として活用できた。

【成果と課題】

【成果】
○遠隔同時接続のメリットを活かし，50 分という限られた時間の中で，生徒一人当たりの言語活動量を増加させることができた。
○インタビュアーを替えて行う２回のインタビューの間に振り返りの時間を設けることで振り返りの質が高まった。その具体として，80%弱の生徒が今回の言語活動を終え，自己評価・自己調整力が高まったと回答している。
○ヘッドセットやブレイクアウトルームを適切に活用し，周囲の音に影響されずやり取りできる環境を作り出すことで，対面と同等以上の集中した言語活動を展開できた。

【課題】
○ブレイクアウトルームでは，一人の授業者が個別のルームの様子を一度に観察することが困難である。言語活動での個々の生徒の行動観察や適切なタイミングでの意図的介入をどのような形で実現するべきか，検証する必要がある。